

言葉足らず？

松本復興担当大臣の発言が波紋を呼んでおり、当事者である松本大臣が辞任する事態になっています。

問題となった松本大臣の発言は、

「知恵を出したところは助けるけど、出さないやつは助けない。」「(漁港の集約について) 県で意見集約をちゃんとやれ。やらなかったらこっちも何もしない。」「お客さんが来るときは、自分が入ってから呼べ。」というものです。

私は、松本大臣と村井宮城県知事との会見の様子をテレビで拝見しましたが、発言の内容もさりながら、権力を持つものの居丈だかな姿に不快なものを感じてしまいました。

松本大臣は、当初、発言に問題はないといていたようですが、被災地からの反発が強まる中、「言葉足らずだったり、ちょっと語気が荒かったりして、結果として被災者の皆さんを傷つけたということがあれば、お詫びしたい」と陳謝しました。

松本大臣は、被災地の皆さんが自ら立ち上がり、主体的に復興に取り組むという姿勢を持たなければ、復興は前に進まない、という趣旨のことを言いたかったのかも知れません。

善意に解釈すれば、厳しいことを言って逆に励まそうとしたともいえます。

しかし、饒舌である必要はありませんが「言葉足らず」では相手に真意は伝わりませんし、伝わらない言葉や態度は、どう言い繕ってみても伝わるものではありません。

今回の、東日本大震災は、かつて経験した関東大震災や阪神淡路大震災を遙かに超えた、文字通り未曾有の被害を広域の地域にもたらしたものであり、その復興対策は、国家的レベルで行わなければなりません。あの膨大な瓦礫処理一つ取っても、一地域、一県で対処できないことは明白です。にもかかわらず、

国において、適確な措置がスピード感を持って講じられているようには見えません。

大震災が発生してから既に100日以上が経過しています。松本大臣が、先ず口にすべきは、政府として対策が遅れていることへのお詫びなのではないか、少なくとも、共に手を携えて復興に取り組もうというような、被災地の皆さんが勇気を持てる、元気の出る言葉だったのではないのでしょうか。

東日本大震災後の新しい日本をどう作っていくのか、そのグランドデザインを描くのは国の責任のはずです。揚げ足取りをするつもりはありませんが、国の責任を脇に置いて、「知恵を出さないやつは助けない」というのは何と傲慢な言葉でしょうか。

また、松本大臣が「俺は偉い病」に罹っているとは思いたくありませんが、長幼の序の発言も、国と地方との関係、大臣と知事との関係を上下関係でしか見ていないのではと、懸念されます。

「隠すより現る」ものです。政治家の皆さんには、言葉の重さを改めて噛みしめていただきたいと思います。(塾頭 吉田 洋一)